

日本のレコード会社に所属する A&R の業務実態と分業化について

米田英智（社会構想大学院大学）

本発表では、日本のレコード会社に所属する A&R の業務実態を明らかにし、分業化による生産性向上について検討、考察する。

A&R は、アーティストやマネジメントとともに、楽曲や映像、アートワークの制作におけるクリエイターの選定や進行管理を行う制作担当者である。制作のみならず、宣伝・販売戦略の立案や収益管理、新人発掘や獲得交渉、新規プロジェクト立ち上げなども担い、レコード会社における重要な職務のひとつとされている。日本では一般的にひとりの A&R が担当するアーティスト、プロジェクト数は 1～4 組、多くて 5 組程度である。一方、海外の A&R が担当するアーティスト数は、アメリカでは通常 5～10 人、フィンランドでは 15～20 人とされている [Nevala, 2019, 筆者訳]。このように、日本と海外で A&R が担当するアーティスト、プロジェクト数が大きく異なることから、日本では広範囲にわたる業務をこなす「全方位型」人材に依存しており、分業化が行われていないと推測される。

そこで、日本のメジャーレコード会社に所属する A&R（85 名）に対してアンケート調査を行い、彼らが実際に行っている具体的な業務内容とその範囲を明らかにした。A&R が行っている業務は、「新人発掘・新規コンテンツ開発」「企画立案」「コンテンツ制作実務」「宣伝・販促・販売」「予実管理・検証」「その他」とされている [米田, 2023]。これら各セグメントにおける具体的な業務内容をアンケート設問に示し、実際にその業務を行っているかどうかを集計した。

また、実際に分業化ができていないプロジェクトを担当している A&R へのインタビューも行った。彼らは元々「全方位型」人材で、ひとりで全てを実行する知識と能力を持ちながらも分業化している。彼らの視点から見た分業化のメリット、デメリットについて検討する。

これら 2 つの調査から、日本の A&R の業務実態と分業化による生産性向上、その導入における阻害要因などを考察する。

参考文献

米田英智, 2023, 「日本のレコード会社の制作担当者に必要とされる知識と能力 —A&R が持つ暗黙知の形式知化—」 pp.24-34

NevalaT. 2019. An Excellent A&R -Work Methods & Characteristics-. Tampere University of Applied Sciences. p.21